踊んら変知もるらしいが、アロサス却不明。 校見的ごお、五、六をの人間の子掛づ肖以

献と人間な合はちにさるこうまでお当き跡。

【ナスニキニ】

番近しいものは、二足歩行に擬人化した動物のぬいぐるみ

しまったでしい。国きた制には、年書の誰ははらず、コネ

振り向いた俺の目は、不可思議な造形を捉えている。一

急に声をかけられ、俺は飛び上がりそうになった。

住宅街に差しかかり、街灯が点っているだけの道である。

るきでならこる見な耕王アで計に右

[……その爺ちん酣。 醂又ひゃおいゆ?]

り継いで二時間くらいか」

コネコは頭を振った。

「神奈川。……江の島のほうだな。ここからだと電車を乗

「ごはん! ここ、どこ? 遠いの?」

目の前の不同思鑑な主き歴

一笑5分しずいところがん

のアイに変化していた。

6

12

変わらなければ、同行を許可してくれるのだそうだ。

年寄り猫と春に再会する約束だと言う。コネコの決心が 駄目。お爺ちゃんが戻って来たら、一緒に行くから」 の存在お厳然としている。

「それ美味しい?」

『コネコシー』は多くの創作者の方々は共有されているコ

以殺以謗〉一重の文章が、引きの潮手な解除以監ぎまか

ンテンツです。

が、料理酒には充分である。ありがく貰い受け、家路を急 た俺にワインを一本進呈してくれた。投げ売りのワインだ 悪いと思ったのだろう。店主は、ビールを半ダース買っ

テーケルの角を挟んで向かい合っていた衝の競いコネコ

「は爺さゃんね、大バナジゃおい!」

コネコは首を預けていた。

部の大バナジー

に見せる。

食べさせてくれるらしいぞ

自然保護団体のホームページが表示された画面をコネコ

「と回してをひによ」

コビトですよ_ 小さな後姿は、夕暮れの道を見る間に遠ざかっていた。

動おジーン、大の尻ポヤッイを探った。 小銭を燃菜屋の割

王习支はハ、白い愐断球發习人で式融的碑を受わ頭る。

、ホテイフライとも観り。魚のフライももらはでかな」

特売のレダスジ心を奪むれてつ、商店街の出去を賑いて **いき動のもう細で作き宣作開い去。 箒の魅決と広いきの**流 飛び出してくる。本当さりを食らい、御お風りへ尻箱を箒

箒を構えていた割主ね、説でて衝を聞り뒄こす。

「お客ちん?」

「一中での人が出! 解いごやないかー」

3

を睨んだ。店主は頭を掻いている 「すみません。でも、こいつが勝手に店の中へ入り込んで 買ったばかりの揚げ物の無事に安堵しながら、俺は店主

のは素早く立ち上がり、脱兎のごとく逃げていく。 「あれ? お客さん。ご存じありませんか? あれはコネ 俺は店主の指さす先に目をやった。転がっていた丸いも

ネコだって王様を見ることができる

御お館く。語しそうにコネコお御を棚めていたが、渋か

師を協へ下ろした。

01

11

・シ
宗
本
」 だけだ

「それで、その爺さん2人間2なりたいって陳んだのか?」

「落ら着わって、変みっさ九のある猫がって言いさんこう

口

御お鼠撃の構えを見せるロネロの随を掌が軒さえる。

ネコお、懸命い強を張り回していた。

の拳位無人でくる。した式み拳を負らり、衝払伸いた。

「コラー ちょっと待て! 一発でおくちんぎ

rupplr: http://donut-st.

日7月01年10月7日

るきずな幺こる見な耕王アで計にも

き、サラダと惣菜を皿へ盛って出した。

「そうすると、つまりこういう事か? 昨夜は普通の猫

コネコの話は、こうである

容で可と記載されている。箸が使えなかったためパンを焼 た。自然保護団体の広報には、人間の子供と同様の食事内

皿に惣菜を取り分けてやり、俺は携帯端末の情報を追っ

「お茶も飲めよ。喉に詰まるだろ。あと野菜

こネコお敷浸淋悪いと思っさな、苦しむな声である。

谷折り (c) 2014 楠樹 暖

『コネコビト』というのは、ここ数年の間に現れた新種の

は願いりゃんら。 かみりい願い事を聞いてあげる」

き。という強んでいきところ抗議の前が聞こえてくる。 持って一 行かんでくれ。 かしを水のあるところへ 重れ 击払鈴伝ら発しアいる。驚いオロネロ払飛び貼らす。

「いっこのもよ。 新いから踏むのお上してくれ」 2000を見回しても雛もいなからた。 「キログラフはしいでいる」

明日、ロネロお茶色の袋が散り薄化ですいるの多見でむ

※王様の絵が上になります 切る 折る

山折り

俺は空の皿を片しつつ、ため息を吐く。台所の窓から覗

13 く庭の一角でネコジャラシが風に揺れていた。(了)

こそにお年書り描と一緒3四子状の酵本多食が、廻って 「-~れていていなくでも」

だろうか。その生き物は俺の持っている袋を凝視していた。

空腹を表す音が辺りへ響く

年書り離れ二本国で立ち、踊り込む。果浸いとられてい るロネロコ浸付き、題コワわ式袋を叩い去。見る間コ袋や こらのいて家 「京かが、東ルが、東しいので!

廻られ、良い匂いのする広いきの依式くさん出てくる。

るもががってる見

ま禁まてた計にさ

袋多店きずり、付近の公園へ向かです。 校別用の水誤び **部まっていま雨水へ袋を投り込む。 金融コ袋お鋤さみ、** 多くが記録の誰になった。

地だった。そこへ父が家を建てる。定年を機に両親は郊外

祖父が土地を取得した当時、この辺りは野原の広がる僻

俺の家は一軒家である。

尋ねる俺に頷いていた。食べる?

ネコだって王様を見ることができる

、移り、勤務先の利便で俺だけが、この家に残された。

「唐揚げ。もっと食べたい」

「春まで半年は先だぞ。本当に迎えにくるんだろうな?」

ネコだって王様を見ることができる

者が必要な立場にも拘らず、単独で生活している事実だ。 -.....考えたんだが、この団体に行ってみたらどうだ? コネコの話は不明点が多い。だが、一番の問題は、

がサダメ』だから駄目だって」

「お爺ちゃんとずっと一緒にいたいって頼んだけど、『旅

満腹になり、眠気のさしていたコネコは、自分の発言を

間になることを望んだ猫が変成するものらしい 自然保護団体の質疑応答事例によれば、コネコビトは人

ネコだって王様を見ることができる